

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	市中病院における Rapid Response System の現状
研究責任者	聖隷浜松病院 救急・集中治療科 土手 尚
研究期間	2024 年 8 月 1 日～12 月 31 日
対象者	当院において、院内急変対応を受けた方。
研究の意義・目的	<p>ラピッドレスポンスシステム(RRS)は、患者の急変を早期に発見し、迅速に対応するために開発された医療システムです。1990 年代後半にオーストラリアで初めて導入され、その後、イギリスやアメリカをはじめ、多くの国で広がりました。RRS の目的は、病院内での心停止やその他の急変事象の発生率を低減し、患者の安全性を高めることにあります。</p> <p>RRS の導入によって、病院内での急変対応の質が向上し、患者の治療結果が改善されることが多くの研究で示されています。しかし、その効果は病院の規模や運営体制によって異なることがあります。</p> <p>日本でも、多くの病院で RRS が導入されていますが、その普及率や具体的な実施内容は病院ごとに異なります。これまでの研究では、主に大規模病院や大学病院における RRS の効果について多くの知見が得られてきました。しかし、病院の規模や診療機能、地域性などの特性を考慮した RRS の実施状況やその効果については、まだ十分に研究されていません。</p> <p>本研究は、地方中核施設である当院における RRS の現状を明らかにすることを目的としています。これにより、地域の特性に応じた RRS の導入・運用の指針を提供し、患者の安全性向上に寄与することを目指しています。</p>
研究の方法	<p>研究のデザイン： この研究は、過去のデータを使った観察研究です。</p> <p>研究の設定： 2023 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間に、当院で急変対応(RRS またはコードブルー)を受けた事例を対象とします。</p> <p>研究参加者： 当院の急変時対応データベースから、対象期間中に急変対応を受けた全ての事例を抽出します。</p>

	<p>取得するデータ: 年齢、性別、急変の発生状況や対応に関する情報を取得します。</p> <p>解析方法: 急変対応の種類ごとにグループ分けし、それぞれのグループについて収集したデータをまとめて記述します。</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
個人情報開示に係る手続き	<p>個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。</p>
資料の閲覧について	<p>ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
問い合わせ窓口	<p>聖隷浜松病院 救急・集中治療科 土手 尚 TEL:053-474-2222(代表) 救急外来 9:00~17:00 平日</p>